巻頭言

「統　計　す　る」

東京教育大学教授　三　瀦　信　邦

ことばというものは時代とともに変化する，とはよくいわれることである。ことばは人間の意志を他人に伝える手段であるから，時代とともに新語ができたり，反対にあまり人々に使われないうちに古語となつてしまうものがあるのは当然なことである。

私が通いなれている理髪店のおやじさんは鋏を使いながらよくいろいろな世間話をしてくれる。先日のこと，彼は「会計事務所というものはもうかるらしい。○○会計事務所の所長さんはメカケを二人も会計しちやつてるが，大したものだ。」と話しかけてきた。メカケを二人とはなるほど大したものだが，「メカケを二人会計する」という新語を聞いておかしなことばだと思つた。「調査する」，「計算する」，「測定する」，「観察する」，「集計する」，「製表する」，「表章する」などということばはきわめて普通に使われる。そして，これらの動詞は，それぞれ「調査」，「計算」等々の名詞に「する」ということばをつけて動詞として使つているのだが，「メカケを二人会計する」という使い方は耳新しい。もつとも，食堂などで「会計して下さい」というときは勘定書の請求の意味で日常使われる。だが，「メカケを会計する」という用語法がまちがつているとしても，理髪店のおやじの言わんとする意味が「会計事務所長さんは金持で，メカケを二人も養つている」であるということはわかるのである。そしてさらに会計事務所の会計ということばをたくみに使つたという面白味もある。

さて，それから一か月もたつて私はゼミナールの学生が，「先生，来週はボクが分担のところを統計してきます」という新語にお目にかかつて，すぐ理髪店のおやじの「メカケを会計する」を思い出した。「統計する」という用語法は外国語にも日本語にもない。「統計調査する」，「統計的」などはよく使うが，「統計」という名詞がそのまま使われると，やはり珍奇にきこえた。

学生用語のなかには時折なかなか傑作なものもあるが，「統計する」もやがてある意味をもつたことばとして定着するのかもしれない。学生が「分担のところを統計してきます」といつている意味は，私には「統計資料を整理再集計して分析のコメントを発表する」と理解できた。私は常々，統計を勉強するということは計算が上手になることとは全く関係がないこと，その統計数字が何を語り，何を語つていないかを知ることが大切だ，と強調しているので，「統計する」という学生の新語は私なりにはその意味がよくわかる。しかし，ことばとしてはやはり目下のところ珍奇である。

社会現象のある一面を数量で表現する統計は，先ず統計調査からはじまることは改めていうまでもない。そして，統計調査というものが自然測定や観測とことなつて，調査者と被調査者という人間相互の対応関係を通して行われる特殊な過程であること，この特殊な過程を通つて生産されたものが統計であること，を考えてみると，「調査する」，「測定する」，「集計する」ということばのように「統計する」とはいわないで，この学生のばあいは「再集計し，分析する」といつたほうが，統計利用の特殊な意味がより正しく表現できることはいうまでもない。

今後もし，「統計する」という新語が市民権を獲得して日常用語になるとすれば，統計調査，集計，分析（利用）という統計の全行程をあらわすことばとなるであろう。つまり，「統計調査」が自然測定とは全く異なる過程であること，「集計」は社会経済の構造を正しく反映できるような分類によること，「統計解析」，「利用」は計算の遊戯ではなく統計数字が何を語つているかを読みとること，の三点を意味する新語として「統計する」が一般に通用することになれば，面白いことばの誕生といえないだろうか。

もちろん，新造語をやたらに粗製乱造することはよろしくない。とくに，官庁用語で一番耳ざわり，目ざわりな「……せられたい」など一日も早く消滅することを望むが，市民の日常生活から自然ににじみ出た新語はそれなりに意味があるのではなかろうか。私は国語研究者ではないからあまり自信はないが，生命のあることばは，時に文法的に誤つていたり，慣用からはずれていても，社会的に通用力をもつてくる必然性があれば，いわゆることばの乱れをあまり気にすることはなさそうである。

これからますます「統計の時代」が進展するであろうが，統計技術が進歩すればそれだけ社会経済現象が正しく反映される統計が生産されるとは限らない。コンピューターにかけられる数字は抽象数であろうと，統計数字であろうと，機械はただ忠実に動くだけである。統計調査の過程を軽視して計算だけにエネルギーを使う傾向がなしとはいえないこの頃，「統計する」ことの本当の意味を考えてみたい。